

特定非営利活動法人リベルテ
[LIBERTE]



LIBERTE

2018 年度（第 6 期）事業報告

I 第6期活動全体を振り返って



【事業について】

- ① 2013年5月に事業がスタートし6年を経過しました。年度末には事業更新申請を行い、福祉事業も更新承認を受けた。
- ② 収益は黒字になっているが、賃貸物件の老朽化やメンバー1人に対する専有スペースが狭くなってきており、引っ越し等も引き続き検討しているため、毎年どの繰越金については税金も係るが留保し積立金と考えている。
- ③ 地域の中にある立地や意味を大事に、ショップ機能（ギャラリーグリーン）では定期的に展示を企画、運営し福祉施設の活動や福祉施設で作られたグッズを紹介した。また、スタジオライトに通うメンバーの作った作品やグッズを展示・販売し工賃として還元するとともに、発表の場や社会へ発信していくツールとしての役割を果たした。



- ④ また文化的な活動や地域の活動へも参加していく中で、今年度は主に books&cafe NABO.に寄付本を直接持ち込みができるしくみ「FURE FURE BOOKS」という寄付活動を取り組み、その寄付金で冊子の発行している。

障害者総合支援法に基づく障害福祉サービス

Ⅱ 福祉事業スタジオライト

1. スタジオライト（支援運営）

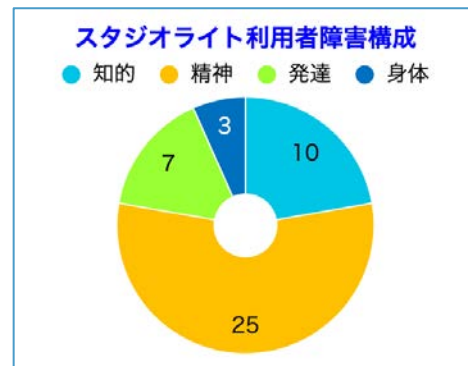
スタジオライトは、継続的な就労が困難で本人の適応できる環境が少なく、自宅以外の居場所や活動の場としての機能を担い事業を展開した。具体的には、障害者の日常生活を総合的に支援するための法律（障害者総合支援法）に基づく指定障がい福祉サービス事業所であり多機能型事業所（就労継続支援 B 型・生活介護）として活動を展開した。

【メンバーの構成】

障害種別の構成

2019 年 4 月 1 日現在

障害	知的	精神	発達	身体	その他	合計
就労 B	4	18	6	1	0	29
生介	6	7	1	2	0	16
合計	10	25	7	3	0	45
構成率	20.8%	60.4%	12.5%	6.3%	0.0%	



【全体】

- ① 福祉事業スタジオライトはアトリエ 2 棟の活動に加え、昨年度 7 月より施設外就労として理事でもある荒井氏の運営する一般社団法人シアターアンドアーツうえだの「犀の角」で施設外就労を実施。



- ② （株）バリューブックスからは本のクリーニングの内職作業を始め、T シャツやお歳暮用の商品依頼など、デザインの発注の他に大口をいただく機会も増え、平均工賃 3,000 円を越えることができた。

- ③ 経理のコントロールがまだ不十分で、年度末の工賃賞与が多くなってしまった。

- ④ 工賃日の味遊カフェや展示を観に外出など、外へ出かける機会も多く設けることが出来た



- ⑤ 一昨年度末から始まったスターバックスの県内の店舗の巡回展を今年度も前半に実施。寄付事業として ONE NAGANO ブックミーツスマイルとして寄付の取り組みにもつながった。

【スタッフの環境整備】

⑤ 常勤職員を増員、アルバイトの増員も行った。役割やチーム内の体制も見直した。総務の仕事量は相対的に減ってはいないが、福祉事業の個別支援計画作成や、勤務表作成、工賃の計算、食数の確認など、コアスタッフで分担することができた。増員について工賃達成指導員の加算及び施設外就労を新たな加算により予算を確保した。

⑥ 法令を遵守し制度内で職員体制を確保・設置する必要性の中で、できるだけ職員の働きやすさや、負担、またやりがいの確保のなど、充分とは言えないが取り入れた。処遇改善加算Ⅱの取得など賃金の向上にも行っているが、工賃とサービス費が紐付けられた昨年度の報酬改定によって、厳しい状況があった。



⑦ その他、具体的な施策

(ア) スタッフ個別の出張研修の実施

(イ) シフトや有給休暇の取得に対して柔軟な対応

(ウ) 体力づくり研修として月1回のヨガ研修の実施

(エ) 育休から復帰後の育児介護時短勤務の実施

(オ) 必要最低限のマニュアルやルーティングと役割分担の明確化でスタッフの主体性の尊重

(カ) 総務や業務量が多いと特に管理者が職場を感情でコントロールしてしまうことを避けるため、できるだけ実務をスタッフと共有し、個々の判断や決定を行えるように体制づくりを目指した



【メンバー】

⑧ 利用者数は増えてはいる（別紙参照）が、定着が難しいケースや、急な欠席は依然多い。見込みの予想が難しい状況は継続している。

⑨ 体調・症状の悪化で中・長期的にお休みが続いている人も増えている。ひきこもりの支援に近いケースがある。また本人が施設のサービス外で、自身で仕事を探すこともあり、その場合、対応が後手に回り対応が難しくなったこともある。本人の意思の尊重と支援チームの活用について認識差を感じた。



- ⑩ ニーズに対して運営を実施するための利用率を確保すると必然的に契約利用者が増えてしまい、ケース管理はまだしも、個別のケアが不十分になってしまうこともあった。全利用者に手厚いケアを行うことは実質難しいが、環境としていつでも相談から、相談支援含めたチームの連携につなげ、また個別対応を行う準備が必要となっている。



- ⑪ これまで計画を管理者と当時主任 2 名で作成し確認をしていたが、一昨年度から体制が変わり、分担し作成する仕組みができてきた。相談や面談の機会も意図的に増えて行きており、それにとって話を聴いてもらえるという安心感が生まれることを期待している。

- ⑫ メンバー個々の作業や活動が充実してきている反面、休憩スペースや面談のスペースの確保が必要になっている。

- ⑬ 実施期間：18 年 4 月 1 日～19 年 3 月 31 日

- ⑭ 活動場所：上田市中央 4 丁目 7-23、上田市中央 4 丁目 8-14 2 号棟

- ⑮ 延べ利用人数：3,974 人／年（2019 年度 3 月 31 日末契約数人） 588 人／年間増

※前年度 3,386 人／年*詳細別紙参照

内、施設外就労実施述べ人数 292 人（2018 年 7 月～2019 年 3 月）

- ⑯ 実施スケジュール：

期月	メンバー予定	
4/16	メンバーとのお花見&温泉ツアー	
8/11～13	素展 in 高知	
8/21	スタバ佐久平イオンモール店 WS	
11/3	カラオケ大会	
12/26	つるかめ会	
12/12	スタバ上田イオン店ワークショップ 「お張り子のペイント」	
2/13	信金ギャラリー in 小布施見学ツアー	
2/	信金ギャラリー in 小布施見学ツアー	
3/23	スタバアリオ上田店ワークショップ「ねこせんべいづくり」	

2. 就労支援

- ① スタジオライトでは昨年度は、販売事業（自主製品制作、創作、デザイン）の他に、新たに受託事業（犀の角施設外就労、バリューブックス書籍クリーニング内職）を開始することができた。
- ② 販売については、自主製品の他にデザインの受注なども大きな収入源になっているが、担当者の負担も大きく、よりメンバーの制作したものをダイレクトに販売する機会を増やしたい。受託事業では、外部の仕事をを行うにあたり、メンバーにあった仕事の仕組みやこのやり方と、発注事業者とのすり合わせに労力を費やしている。
- ③ 新しい事業については担当者も初めて取り組むスタッフであるために、計画どおりという訳にはいかなかったが、1つひとつをチームと確認し、メンバーにあった仕組みやマニュアル作成にし直し、粘り強く支援に繋がっていった。
- ④ 結果としては、月の工賃が7,000円を超えるメンバーも出てきており、月10,000円程度の工賃まで上げて行きたい。（月額平均工賃 3541円 * 就労継続支援B型実績）
- ⑤ しかし施設都合のチャレンジを行う結果、メンバーの利用やモチベーション、体調にも影響が出ることがわかったので、ノルマや工賃向上はあくまで結果として、出来ていることや環境を整えることでやりやすくなることを優先して支援を行っていきたい。
- ⑥ 実施期間：18年4月1日～19年3月31日
- ⑦ 活動場所：上田市中央4丁目7-23 * 生活介護
上田市中央4丁目8-14 2号棟 * 就労継続支援B型
上田市中央2丁目11-20 * 犀の角（施設外就労先）
- ⑧ 年間売上：1,714,761円（内訳：販売 1,600,868円、クリーニング 8,776円、犀の角 105,117円）
- ⑨ 販売会、ワークショップ、出店、受託作業の実績



期月	出店・ワークショップ	受託（犀の角、本クリーニング、依頼）
4月	びんずる市(長野市) 境内アート(小布施町) 稲荷山縁日(千曲市)	犀の角喫茶打ち合わせ・メニュー試食会 下旬より喫茶に向けた準備開始

5月	アウトドワフェス(小諸市)柳町発酵まつり(上田市) 曼荼羅マーケット(上田市) えばぐり市	駐車場清掃の手順確認、チラシ配り
6月	こーさんの家イベント出店(松本市)えばぐり市(小布施町)信州森フェス(小諸市) さとのわマルシェ(上田市)びんずる市 WS(長野市) はぴすぽ(長野市)	犀の角喫茶打ち合わせ・メニュー試食会
7月	霊仙寺温泉クリーンフェスタ(上田市) ○稲荷山アールブリュット 出店 WS(千曲市) びんずる市 WS(長野市)	7/17 犀の角喫茶オープン(火、木、金曜営業) 駐車場清掃(毎週火曜日) チラシ配り(適宜)
8月	エコラの森のなつまつり(原村)柳町夏祭(上田市)えばぐり市(小布施町)	
9月	びんずる市(長野市)千曲荘病院祭(上田市)トコト・ロピス(上田市)えばぐり市(長野市)	商工会様より内職受け実施
10月	長大祭(上田市) てとてと市(上田市) びんずる市(長野市)おぶせエバークリーンマーケット(小布施町)	『リベルテの角』として期間限定オープンテラス営業実施 スイーツ開発開始
11月	小諸ツリーハウスプロジェクト(小諸市)	11/14 ディスク磨き、本クリーニング打ち合わせ
12月	わたのわマルシェ(上田市)	本のクリーニング・ディスク磨きお試しでスタート
2月		ドーナツ試作たっぷりふわふわカフェオーレがメニューに追加
3月		上田ライオンズクラブ様より上田獅子受注 食事新メニュー打ち合わせ
定期出展&WS	似顔絵 LING@nabo(毎月1~2回)	



障害者総合支援法に基づく相談支援事業

実施せず

3. 文化事業

① リベルテアーツカレッジ

(ア) 事業実施期間：18 年 5 月 1 日～19 年 3 月 17 日

(イ) 実施場所：犀の角(上田市中央 2 丁目 11 -20)

(ウ) 事業の内容

- (1) 講演「[見ること]障害ある人の表現と作品の読み方」講師：中津川浩章氏
- (2) 講演「[読むこと] 障害ある人の表現と作品の読み方」講師：ロジャー・マクドナルド氏
- (3) イベント『[場を開く] 障害ある人の表現と作品の読み方』
キートーク『ザツゼンとひらいていく 喫茶カプカプの実践』講師：鈴木 励滋 氏
セッション『地域の中で場を「ひらく」こと』鈴木 励滋 氏×荒井洋文 氏
- (4) 報告書作成

(エ) 事業の成果

中津川浩章氏の講演会では美術作品を「見る」ということを通じて、障害のある人の作品について「見る」こと、鑑賞について参加者の方の理解が深まった。ロジャー・マクドナルド氏については美術史を参考にしながらどのように美術の評価が様座な作品や考えを取り入れるようになったのかを知ってもらい「読むこと」で障害のある人の作品について考えた。鈴木 励滋 氏及び荒井氏のトークでは、社会学的なアプローチから障害福祉の施設が地域の中で場を開く意味を話していただき、アートと福祉の役割と使い方について考える機会になった。またなぜ開くのか、何をもって開いているのか、参加者と一緒に考えた。

(オ) 参加人数・参加者層等

- (1) 中津川浩章氏 講演会 参加者 28 名
- (2) ロジャー・マクドナルド氏 講演会 参加者 26 名
- (3) 鈴木 励滋 氏 トークイベント 参加者 35 名
- (4) 報告書 2,000 部（上田市文化事業採択分掲載） 作成



4. 寄付事業

① FURE FURE BOOKS

(ア) 事業実施日

- (1) 18 年 4 月 1 日～19 年 3 月 31 日

(イ) 実施場所

- (1) Book and Café NABO. (上田市中央 2 丁目 11 -20)
- (2) 上田市社会福祉協議会エントランス(上田市中央 3 丁目 5-1)
- (3) 長野大学ボランティアセンター(上田市下之郷 658-1)

(ウ) 事業の内容

- (1) 月に 1 度関係機関が集まり、ミーティングを行う
- (2) 寄付月間 2018 公式企画「本のつながりがこの街をつくる」イベントを開催
12 月 1 日@犀の角(上田市中央 2 丁目 11 -20)
- (3) 卒業や進級、引っ越しが重なる年度末に寄付本の呼びかけ(長野大学ボランティアセンター)／FURE FURE BOOKS 全体でチラシを作成し配布・郵送

② BOOK MEETS SMILE

(ア) 事業期間

- (1) 18 年 6 月 27 日～9 月 30 日 * 古本募集期間

(イ) 実施場所

- (1) スターバックスコーヒー長野県内 20 店舗
- (2) (株)バリューブックス関係施設
- (3) イベント時に設置

(ウ) 事業の内容

- (1) スターバックスが長野市に第 1 店舗目を出店し 15 年目の記念事業として企画された。スターバックスコーヒーへの巡回展などの交流を通じて、リベルテへの寄付が決定した。
- (2) 県内の企業と協働し、同じ地域の仲間を応援しようと「ONE NAGANO」を合言葉の期間限定のチャリティープログラム。
- (3) (株)バリューブックスのサポート・ファシリテートを得て実施。

(エ) 成果

- (1) 受け取り寄付額 303,243 円

③ リベルテ 100 年未来トーク

(ア) 事業実施日

- (1) 18 年 12 月 1 日 17:30～(第 0 回)
- (2) 19 年 2 月 9 日 20:30～(第 1 回)

(イ) 実施場所

- (1) 犀の角(上田市中央 2 丁目 11 -20)
- (2) うえだまちなかキャンパス (長野県上田市中央 2 丁目 5-10 丸陽ビル 1 階)

(ウ) 事業の内容

- (1) 地域の人とリベルテや障害福祉について話し交流する機会を設けた
- (2) 第0回は試験的に行い、第1回では東京から講師を及びして、ファシリテーターを行ってもらった。
- (3) 継続的に行えるような機会づくりを目指していきたい。

(エ) 第1回講師について

古瀬 正也（ふるせ まさや）

古瀬ワークショップデザイン事務所代表、NPO 法人ぱぱとままになるまえに理事

埼玉県出身。鎌倉市稲村ガ崎在住。学生時代、対話の手法「ワールド・カフェ」に出逢い、対話（ダイアログ）に関心を持つ。実践と研究を往還する中で、対話の場づくりの依頼が増えたことを契機に 2012 年に独立。これまで中央省庁や行政、民間企業、NPO、学生など、あらゆる分野で約 400 回以上のワークショップを実施。近年では、南山大学の T グループやトレーナートレーニングを経て、体験学習（ラボラトリー・メソッド）を基にした研修なども行う。最近では、自主企画として「ラボラトリー・トレーニング」「ミニカウンセリング探究会」「西田哲学をみんなで学び合う会」などを開催している。現在は、全ての〈いのち〉が生き生きする方へ向かうためのアプローチを模索中。

5. 寄付・文化事業実施実績

期月	文化事業実施報告	備考
	Book Meets Smile ・イオン上田店展示「上田のまちのリベルテの展示」 ・メンバー嘉澄幸村さんによる 20 店舗店長の似顔絵制作	
	Book Meets Smile イオンモール松本店展示	
	Book Meets Smile 長野県知事表敬訪問	
	Book Meets Smile 巡回展がスタートしました。 コーヒーサードイベントに同席し、スタバパートナーさんと一緒に広報・啓発活動を行いました	
7/22	講演「[見ること]障害ある人の表現と作品の読み方」講師：中津川浩章氏	
8 月	Book Meets Smile トークイベントに参加@シンカイに参加	
9 月	【Book Meets Smile】 MIDORI 長野にて行われたスターバックス主催イベントに参加 ワークショップブースにてリベルテオリジナルスタンプを使ったワークショップを行う	

	リベルテ FC(ファンクラブ)によるイベント開催 「スタバ×AIKA」 ポエムの会 FC メンバー発案フォトプロップスを作成。県内全店舗に配布し企画の PR を行う。	
9/22	講演「[[読むこと] 障害ある人の表現と作品の読み方」講師：ロジャー・マクドルド氏	
11/25	イベント『[[場を開く] 障害ある人の表現と作品の読み方』	
12/1	寄付月間 2018 公式企画「本のつながりがこの街をつくる」リベルテ 100 年未来トーク vol.00	
2/9	リベルテ 100 年未来トーク vol.01	

その他この法人の目的を達成するために必要な事業

実施せず

4. 総評

この報告書のまとめを書いているタイミングで、リベルテ 100 年未来トークの第2回目が行われました。本当は、2日目の研修に参加予定でしたが、理事会資料が終わっていないために参加せずに、共有できないモヤモヤを残しこの資料を作成しています。1日目のトークで「そういう感覚」があるという素直な話として、スタッフが休むことを申し訳なく思っているという話をしました。責任感もある話言だと思いました。また、あるスタッフは子育てをしながらの仕事がとても大変なものだという話をしていました。確かに、自分自身が子育てをしながら仕事をするということは、時間や体力を想像以上に削られてしまいます。もっと上手く段取りやお願いができれば楽にもなるだろうけど、意外とそれができないなという実感があります。どの話も普段は、「そう



だね」と思います。ですが、あの場にいたぼくにとっては、地域の中にある「わたし」として改めて聴くとそれはとても何とかしないといけなと感じました。そういう自分も、年度末の作業が重なり終えられない苦しい状況になっていて、「これは大変だ」と思う訳です。リベルテ 100 年未来トークが終わった後、モヤモヤしたものは、もっとそのことに真面目に取り組むものが、自分の目の前にあったという、反省や恥ずかしさからでした。

話は変わりますが、ぼくは8年前にパニック発作のような症状が出たことがあり、1年ほど服薬と頓服を併用しながら仕事をしたことがあります。当時、東京の出張で山手線を電車で移動するとき、ホームから咄嗟に飛び出してしまうんじゃないかと、頓服を握りしめて移動したことを覚えています。休めなかった理由は、仕事で強く負い目を感じていたことがあり、また職務にも責任を全うしなければという気持ちが強かったからだと思います。けど、本当は休みたかったと思います。

誰のせいでもなく、自分で休むことを「いけないのではないか」「自分がやらなければ」と禁じていた日々が、結果、自分を苦しめていたことがありました。その苦い経験が、リベルテで雇うスタッフの職場環境づくりをする上でまず前提にあります。働きやすく、なおかつ日々の様々な職務にも取り組める職場環境づくりは、そういう意味では、ぼくが代表に選任してもらえている間で実現したいひとつの挑戦です。同時に法令遵守が原則の福祉事業では実現することの難しさに対する挑戦でもあります。



だけど、それでも休んだことで自分を攻めてしまう、無理していることを自分で我慢してしまう。それが相互に関係して、人を縛る関係をつくってしまう。そういう状況や知らずのうちにできている関係をどうしたら解放できるのでしょうか？それは自分が大変だという声に自分で耳を傾きすぎているという自己責任の話なののでしょうか？それとも我慢させている誰かがいるということなののでしょうか？

今、自分がこうした感じていることは、振り返ると、この1年、メンバーの何人かも同じような状況にあったかもしれないと思いました。同時に、大変さを分かち合うことと、気楽に楽しめること。その両立も、メンバー同士、メンバーとスタッフ、スタッフ同士、リベルテと地域との関係・往復の中に、アトリエや犀の角の施設外就労にも確かにあったと思います。

「わたし」が感じた居心地の悪さ、が、「あなた」の居心地の悪さに地続きなのだとしたら、半径 0m から関係や社会に問いかけていくことを大事にしたいと思いました。このことをどうしたら良いかは、ぼくにはまだわかりません。人に依存し、ケアされなければ解消できないのかもしれませんが。スタッフもこれに共感してくれたら、取り組む1つのものになるかもしれません。もしかしたら、他にもっと大事な話題があるかもしれません。何れにせよ、スタッフの働きやすさが、同時にメンバーの生きやすさに。メンバーが安心して避難し休め自分の仕事や取り組みたいことをできる場づくりをすることで、スタッフが生きやすい地域づくりに貢献できる。そんな取り組みたいをリベルテではしていきたいと思いました。

